

様式（第5条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 26 年度第 1 回行田市史編さん委員会
開 催 日 時	平成 27 年 3 月 18 日（水） 開会：14 時 00 分 ・ 閉会：15 時 30 分
開 催 場 所	行田市郷土博物館 会議室
出席者（委員） 氏 名	岸田 昌久 香川 宏行 劔持 和夫 津田 馨 向井 隆健 田村 均 小島 孝夫 根岸 茂夫 田代 脩
欠席者（委員） 氏 名	（なし）
事 務 局	文化財保護課長 中島洋一 市史編さん担当嘱託 久保康顕
会 議 内 容	別紙会議録のとおり
会 議 資 料	・ 会議内容レジュメ ・ 埼玉県内を中心とする自治体史普及版の刊行状況（表） ・ 普及版の記述量と版型、内容構成のシミュレーション（表）
そ の 他 必 要 事 項	

発 言 者	会 議 の 経 過（議題・発言内容・結論等）
小島委員 岸田委員長 事務局 岸田委員長 事務局 (久保) 事務局 (中島) 向井委員 香川委員	＊市民憲章唱和 1. 開会 2. 開会あいさつ 中島文化財保護課長 3. 議事 岸田昌久委員長が議事を進行。 事務局から報告・説明のための会議資料を配布。 （1）市史編さん事業の経過報告について説明 ① 『行田の民俗』の刊行について 小島民俗部会長より、刊行の経過および民俗編3冊を収納する箱を製作できた旨の報告。また民俗編全体の終了にかかわる総括として、編さん事業が始まってからの合併であった南河原地区の内容を盛り込むことができたこと、多くの生活の記録を残すことができ今後の活用が望まれる旨の報告があり、了承された。 了承にあたり、要望は以下の通り。 『行田の民俗』をはじめとする民俗編は楽しく読める本であり、きちんとPRに努めてほしい。 ② 『新しい行田の歴史』刊行関係について ③ 事務局の活動について 事務局より、配布資料にもとづき説明をし、了承された。 質疑は以下の通り。 収集資料データベースの変更の理由は、「五郎」「桐」とはどういったものなのか。 ・「五郎」はWindowsXPでの動作を想定した、開発・保守の終了している古いデータベースソフトで、将来的な使用に耐えられない。最新で発展性があり、また利用者が多く評価も安定している「桐」に移行したい。 （2）普及版『新しい行田の歴史』（仮称）の刊行について 市史編さん事業における本巻刊行の位置づけを説明、事務局久保より具体的な内容・体裁・構成について説明をし、質疑のうえ了承された。 各委員の意見・発言要旨は以下のとおり。 ・内容の難易はどの程度なのか。記述の平易さが必要ではないか。 ・中学生の副読本レベルではどうか。 ・専門用語は使用して大丈夫だと思う。 ・行田市の人口減少率は高い。（減少を防ぐためにも）行田の魅力

岸田委員長	を伝えていかななくてはならない。 ・活字離れが深刻ななか、若い世代にわかりやすいもの「見やすい」「解りやすい」、という普及版を作ってもらいたい。活字離れのなか、これなら読めるというものを願います。 ・地元のことを、なるべく小学生の時から、そうでなくとも中学生になったら語れるようにしてゆきたい。そうしたことに資する本であってほしい。 ・考古分野での執筆を依頼されているが、執筆期間が短いと思う。 ・普及版の活用促進のために、市内の小中学校に配布するといいいのではないか。
田代委員	・行田市史の編さんは、他市と比べると異質である。普通は資料編→通史編→普及版の順に刊行する。通史編でしっかりと叙述し、それをもとに普及版を作るのが筋ではないのか。 ・刊行計画の理由は別にしても『行田市史 上巻』『行田市史 下巻』の刊行された昭和 30 年代と現在では、大幅に学問的水準が上がった。本当はもう一度、新たな通史編を作るべきである。 ・平易に書いて、写真・図版を多く盛り込み、一般の人を対象とした内容を考えたい。中学校教科書・副読本は記述内容が本当に単純である。その年代に合わせたのでは、たいした内容にならない恐れがある。 ・資料編の価値は、史料の記録・保存や公開にあって大きなものがある。しかし、内容は難解な漢文調の文章であり、だから古代中世資料編では、一点一点の史料に読み下しと解説を付けて、読者の便宜をはかろうと工夫したが、それでも一般の人には読みづらいことは認識している。こうしたことから、きちんとした内容の普及版を作るべきではないか。
根岸委員	・中学生に理解してもらうのが、理想であると思う。ただし、内容や記述量の制約が大きくなる。高校日本史レベルが妥当では不会だろうか。 ・専門用語の解説を始めてしまうと、それだけでスペースが無くなってしまふ。専門用語の説明はある程度省き、その分内容を多く取り入れたい。
小島委員	・民俗編に携わった側から言うと、民俗系と歴史系の本とでは、利用のされ方が違ふ。民俗系では身の回りの事象を取り上げていることから、子供が読んでわからなくても、少々古いことであっても親が説明することができるので読みやすい。歴史系は親が説明できないことも多いので考えなくてはならない点がある。
田村委員	・新しい通史を作らずに普及版を作るのは、やはり変則的ではないか。 ・教員養成の学部で学生に接している身として、行田をはじめとする県北の学生が、出身地の自慢をしないように感じる。また、どのような歴史があるのか知らないように感じる。最近の例では、川越市などの学生が、地元のアピールや話をするようになってきたのと対照的である。

岸田委員長	・コンパクトにしなければならず、内容をどう詰めるか悩ましい。しかし普及版は、手にとって街の歴史を知る、良いチャンスであると思う。 ・生まれた町の誇りをもつ人間をつくりたい。それは自身の課題でもある。 ・考古資料編を作る前に普及版を作ることになる。普及版の考古分野の担当の方には、調査・執筆のための時間的配慮をなんとかしてあげるべきであろう。 ・執筆者方の苦労はわかるので、苦労や問題を乗り越えて是非、良いものを書いていただきたい。 ・行田には、鉄剣・古墳・足袋・忍城ほか、胸を張れるものがある。全体を見渡すことのできる本をになってほしい。
事務局 (中島)	・普及版の考古分野については、執筆材料・資料等を事務局で用意をし、執筆者の負担軽減のためのバックアップを最大限するつもりである。また、古代分野との住み分けについて、すりあわせが必要であるので、事務局側で進めておきたい。 ・未来志向の本にしたい。より多くの市民に、行田の歴史・文化のすばらしさ・特徴を伝え、行田に住むことに魅力を感じてもらいたいと考えている。 ・市内の小中学校の図書館には無償配布することを考えている。
事務局 (中島)	(3) 今後の市史編さん計画について ①考古部会の活動について ②各部会の活動 配布資料にもとづき、事務局中島が説明。その後補足と質疑を経て了承された。 補足・質疑は以下の通り。 ・タイトなスケジュールであるが、次回の委員会で普及版刊行の了承をもらえるよう鋭意作業を進める。また同時に考古編の作業も進めていきたい。
岸田委員長 事務局 (中島)	考古編はどのような内容になるのか。 ・旧石器時代から近世の遺構・遺物があり、それらを盛り込んだものになる。それぞれの時代を担当する執筆者はいるので、全体リーダーを早急に選び、作業に入りたい。
	4. 閉会 (あいさつ 中島課長)